

# 事例からみた災害時に求められる「道の駅」へのニーズについて



国立研究開発法人  
土木研究所 寒地土木研究所  
北海道札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34  
TEL: 011-590-4044  
E-mail: scenic@ceri.go.jp

吉田 智 / 松田 泰明 / 高田 尚人

## 1. はじめに(背景と目的)

「道路交通の円滑化と活力ある地域づくりへの寄与」を目的に始まった「道の駅」は、発足後20年が経過し、全国で1,059駅登録(2015年4月15日現在)され、年間購買客数2億人以上が利用しています。2004年の新潟県中越地震や2011年に発生した東日本大震災では、多くの人々が避難しており、さらに北海道の暴風雪災害においても、道路利用者や地域住民が「道の駅」に避難し、支援を受けています。

そこで、避難経験者が、災害時に何を求めて「道の駅」に避難したのか調査を行い、災害時に求められるニーズについて考察しました。



▲駐車場への避難状況 (写真上 提供: 網走開発建設部)



「道の駅」は・・・  
課題  
沿道の快適な休憩施設として整備されている。  
そのため、自治体の防災施設として位置付けされていない。  
災害時、道路利用者や地域住民の方々が多く避難している。  
目的  
したがって、災害時の「対応」や「防災拠点化」などを考える必要がある。  
しかし、「平時」と「防災」を両立させながら、魅力的な施設整備が必要である。

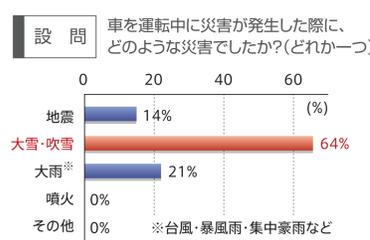
## 2. Web アンケート調査概要

平成25年3月29日～8月30日に、これまでに道路を移動中に何らかの災害により「道の駅」や、それ以外の施設に避難した経験のある方および経験のない方を対象に、WEBアンケート調査を実施した。

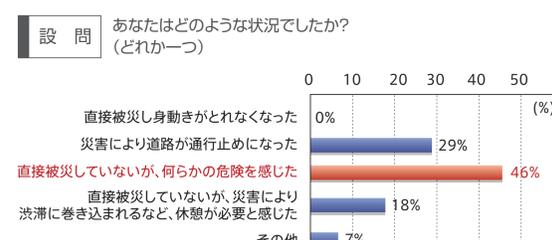
### ● WEBアンケート概要

調査期間	調査方法 / 対象者と回答者	主なヒアリング調査内容
平成25年 3月29日～8月30日	インターネットサイト「北の道ナビ」を利用したアンケート調査 全回答者数 228名(その内、避難経験者:28名)	・被災時及び避難場所とその状況 ・避難に必要なサービスとその費用負担 ・「道の駅」の防災拠点化について・・・など

### ● 避難経験者の被災状況

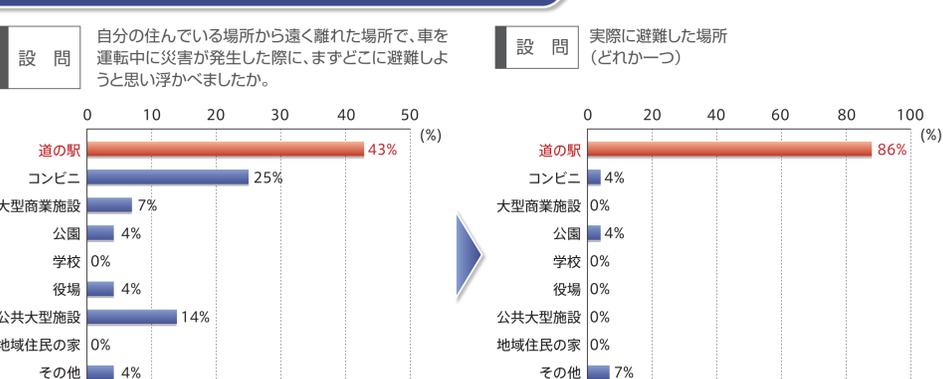


### ● 避難した理由

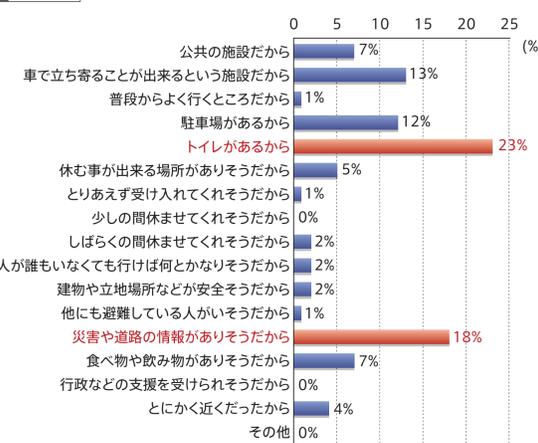


## 3. 調査結果

### 災害時の避難先とその理由



### 設問 道の駅へはどのような理由で避難されましたか?(3個まで)

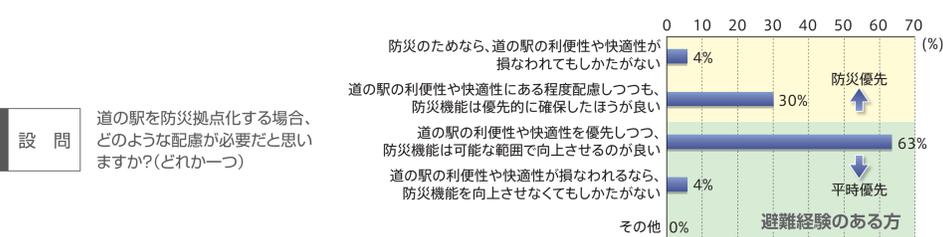


避難経験者は、直接被災していなくても何らかの危険を感じた時に、コンビニではなく「道の駅」に避難しており、「災害・道路の情報」、「トイレ」などを求めていることが把握できた。

これらは「道の駅」が情報、トイレや駐車場の公共の施設であることが大きく影響しており、その土地に不慣れな人でも、普段から一般的に利用している沿道の施設であることが理由と考えられる。

### 防災拠点化時の配慮(平時の快適性との関係)

「道の駅」の防災への準備は重要であるが、避難経験者からも、取り組みに関しては、平時の利便性や快適性を確保又は配慮しながら行うことが求められており、「快適な休憩施設」、「地域の交流施設」としての魅力は低下させてはならないという利用者の期待の高さがうかがえる。



## 4. 結 論

自由意見で『灯り』、『とにかく雨風をしのげればよい』、『座れる場所』などの回答があり、身の危険を感じた時に、とにかく安全な場所に避難し、落ち着きたいという心情がうかがえる。

これらに貢献するのは屋内外の『休憩施設』などであるが、これは全ての「道の駅」が平時に有している機能である。

したがって『災害・道路の情報提供』、『トイレ』、『駐車場』、『休憩施設』などの提供であれば、「道の駅」自体が本来、基本的に有する機能であり、災害時でも、これらの機能が発揮されることが重要である。



### 災害時に求められるニーズと支援

#### ■ 災害・道路の情報

避難者は「災害・道路の情報提供」を最も求めており、求めたニーズと受けた支援の数に差がある理由として、得られた情報が十分でなかったことが理由として考えられる。

なお、避難経験者の自由意見でも「色々な情報が飛び交うので正確な情報を提供して欲しい。」など情報に関するニーズは高い。

#### ■ トイレ

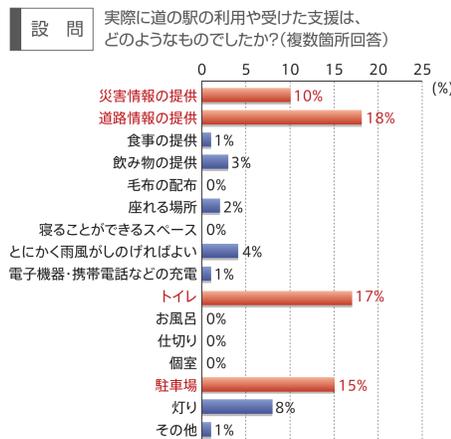
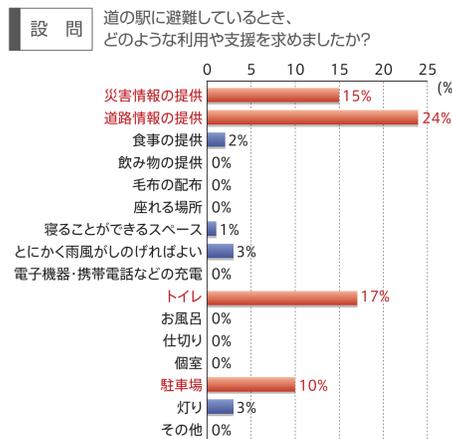
現地調査でも、トイレに対するニーズが高いことを把握している。

災害時にトイレが使用できないと避難者支援が困難な状況に陥る。



#### ■ 駐車場

車両での移動中に災害に遭い、安全な場所に車を止め避難できたことが避難者支援につながったと考えられる。



### サービスに対する支払い意志

避難経験者は、有償サービスに対する理解が高く、これまでの災害事例では、備蓄品や自治体からの支給品以外の「道の駅」の販売品についても、無償で提供していた事例も少なくない。しかし、そのために大きな負債となった事例や、競い合って支給を求めるなど無償提供による現場での混乱もあった。

そのため、災害時に支払い能力のある避難者からは、販売品については有償での提供が望ましいと考えられる。

